

C.P.I. The Committee for Promotion to Innovate Japanese  
People by Educational and Cultural Contact, since 1979  
教育文化交流推進委員会

## 2018 年度 事業報告

認定 NPO 法人 C.P.I.教育文化交流推進委員会

The Committee for Promotion to Innovate Japanese people  
By Educational and Cultural Contact  
Authorized by Japanese Government

## C. P. I. 30年の歴史を支えてくださった会員みなさまへ

C.P.I.の「I」=Innovate Japanese People と「顔の見える支援活動」

会長 小西 菊文

C.P.I.が30年間してきたことは、途上国の、貧しい家庭の子どもたちの中から、社会のリーダーとなり得る人材を育ててきたことです。最初のうちは、国内の人々には、「他国の子どもを助ける？ 何のため？ クレイジーですよ！」と、言われたものです。「いいことだから、人々の支持を得られる」ということでは、なかったのです。しかし、それが、社会の向上の早道であると信じて、同志を募る努力を続けました。1989年に日本経済新聞で、『日本初の、教育里親制度による途上国支援。』と、取り上げられたおかげで、多くの方に教育里親プログラムに参加して戴いたことに、厚く尊敬と感謝を申し上げます。これからも手を携えて、ますます、途上国の地域振興を目指す人材を育てる教育支援と能力開発に力を注ぎましょう。まだまだ、頑張ろうではありませんか。

### 『民間』=「人と人の協力関係。」は、信頼をつなぎ止める鍵。

思い起こせば、30年前、スリランカでもインドネシアでも、日本人に対する印象は、決して良いとは言えませんでした。それを解かしたいと、ロマンを抱いたのは、39歳のときでした。

昔のスリランカでは、私たちが教育里子との交流団で訪れた際、里子の家に行く道筋で会った子どもたちに「日本から来たよ。」声を掛けると、彼らが「怖い〜。」と、言いつつ、蜘蛛の子を散らすように逃げるといふ体験を、何度もしました。これは、結構、ショックでした。日本人について、人々が持っているイメージについて知りたくなり、スリランカの奨学金運営組織を通じて、数千人規模のアンケートをとりました。すると、『日本人は人喰い人種とって来た』との回答が8割を超えました。当時ヨーロッパで起きた「日本人、人を殺して、人肉を喰う事件。」が、テレビで何度も放映されたことの影響でしたが、そのことが、日本人全体の印象となったことに驚いたものです。

それでも、教育里子の家庭からは、「C.P.I.の皆様が子どもたちへの支援をしてくださるので、考えが変わりました。」との返答がありました。教育里親による“顔の見える支援が目指す活動”を、もっと進めなければならないと思いました。そして、活動の価値に自信を持つことができました。

インドネシアでも、30年前のジャカルタでは、教育里子の家から数筋離れた路地に入ると、往々にして、「日本人め。」と、石を投げられました。経済的な利害関係のない、しかも見知らぬ人々の、そうした態度こそが、彼らの『内なる日本人に対する気持ち』なのだと思います。親しいインドネシアの方々に「ほんとのところ、どうなの？」と意見を求めても、「よく、わからないなあ」と、言うばかりでした。いまは、心に染みつくほど、よく、分っています。

あれから10年以上、様々な地方の教育里子の家を訪ね歩き、家の人たちと話し合い、家の修理なども手伝いながら、両国の人々と、日本人との距離を、縮める方法を、身をもって知りました。教育里親プログラムを始めて良かったと心から思います。いまでは、C.P.I.の「I」=Innovate Japanese people by Educational and Cultural Contact は、自分の信念になっています。

## インドネシアでの、C.P.I.の活動の、初期のエピソード。

印象に残っていることを、ひとつ、お話ししたいと思います。

1992年、東ジャワのマラン近郊、ポンチョクスモ郡ワテス村の学校には、わずか16名の生徒が学んでいました。その村で、C.P.I.は、教育里子として6名の奨学生を支援することにしました。その村には、第二次世界大戦当時、日本軍が駐留していて、多くの迷惑をかけていたとのことです。私も、なんとか挽回したい、できればお役に立ちたいとの思いで、教育支援を始めたのです。おそらく、早期にC.P.I.の会員になられた方は、第二次世界大戦当時、日本軍の一部が人々に対して犯した、数々の悪行をご存知だと思います。ですから、1948年生まれの私の思いを、お分かり戴けるのではないかと思います。

教育里子たちは、大いにやる気を出してくれて、ポンチョクスモ郡の実力テストで、好成績をとりました。私どもにとって、それは大変嬉しいことでした。

数年後、教育省が、ワテス村を『優秀教育地域』に指定して下さり、おかげで、ワテス村には、改修された道路・電気・水道などが設置され、インフラ事情が様変わりになりました。

これは、ワテス村の人々だけではなく、ポンチョクスモ郡の人々にとっても喜ばしいことでした。

聞いてみると、有名な私立学校の熱心な教師たちが、ワテス村の小さな学校に多数の良い成績の子どもがいることに、大いに興味をもって、転任してこられたことが、きっかけだったとのこと。

すると、その先生たちを慕った優秀な生徒たちが、他校から移ってきた、とは二重の驚きでした。その結果、C.P.I.が教育里子を置いてから数年で、ワテス村の学校は、160名を超える生徒数となり、教育省の目に留まるどころとなり、『優秀教育地域』の指定を受けた、とのことでした。

そのとき心打たれたのは、それだけではありませんでした。ワテス村で「日本人駐留兵隊と所帯をもって来た。」と、いうことで、長年非難されていた女性たちが、「日本人が子どもたちの教育を支援したおかげで、ワテス村のインフラがよくなった。」というので、面目をとりもどしたとのことでした。やや複雑な気持ちでしたが、お役に立てたことは、素直に喜べました。

### 教育里子との交流で、何かを知ることになる。

1993年、C.P.I.は、ワテス村に日本から30名の学生を、ワークキャンプとして送り出しました。そのうちの一軒のホームステイ家庭の娘が、プログラムを終了したあと、泊まっていた日本の女子学生に渡して欲しいと、私に一通の手紙を託しました。「あなたの滞在中、近くに住む伯母が遂にあなたに会わなかったことをお詫びします。伯母の夫は、昔、日本の兵士に首を斬られ、叔母は、日本人を生涯許さない、と言っていましたから。でも、私は暖かい心で子どもたちを助けて下さる日本のあなた方が好きです。ですから、私は、きっと伯母の固い心をほぐしてみせます。ですから、また来て下さいね。」というものでした。日本の女子学生は、所謂「いまどきの娘」で、チャランポランだったのに、その手紙に泣いて、がらりと変わり、そのあと猛勉強して国連職員になって、いまも働いています。教育里子に接すると、日本の子どもは、間違いなく、良い能力が開花します。皆様は、ご自分の子どもさんやお孫さんに、そういう機会をあげてください。お願いします。

1. 教育里親制度プログラムに係る報告（定款第七条1項1号）

(1) 貧困家庭にありながら学業成績優秀な学生への教育支援を行いました。

① スリランカ教育支援活動では、円高により、現地通貨換算で奨学生ひとり当たり2%増となりました。

教育支援金の 2018年度対象学生数

学年	9年生	10年生	11年生	12年生	13年生	AL 試験再受験者	合計
人数	54名	135名	74名	39名	75名	36名	413名

スリランカ教育支援の当期計画と当期実績（金額単位:千円）

	2018年度 計画	2018年度 実績	備 考
里親数/里子数(人)	387/387	384/413	計画は、2018年度開始時期の教育里親数による。
認証式支給学用品	3067	2905	ひとり当たり支援額増は、現地通貨では2%増加した。
毎月支給奨学費	7168	6845	補習クラス、特待生補助、通学、薬代等(同上)
年内支給奨学費	265	250	通学靴、制服仕立費、写真代等(同上)
(小計①)	(10,500)	(10,000)	
奨学修了者活動補助	336	0	奨学修了者への支援活動はできなかった。
調査・報告・広報費			日本側の負担は、広報・報告予算で行う。
(小計②)	(336)	(0)	
合計	10,836	10,000	

2018年の計画で、内戦終了後に難民キャンプから退去させられ故郷に戻れない子どもたちを支援するために、「奨学修了者と連携して教育支援を進める準備を進めたい。」という内容で予算も立てたのですが、2018年度は残念ながら、資金的な準備をすることが、できませんでした。

2007年に奨学修了者会を組織して以来、彼らの働きで、「スリランカ人教育里親による支援」は広がり、現在数百名の奨学生をその方々が支援しています。  
今後とも、彼らとの連携活動を、実現させる考えです。

UNHCR(国連高等難民弁務官事務所)は、テロ組織 LT TE 掃射作戦の最終段階に、スリランカ政府が北東部の全面爆撃を決定したことに伴い、住民を一時的に難民キャンプに集めました。その人々は、2010年以降、難民キャンプから放り出されました。費用がかさむからとの理由は分かります。ですが、その人々は、故郷の状態が回復されない状況の中、故郷には帰るに帰れず、わずかな政府補助で生きていました。我々が、彼らを訪ねたときも、不満が鬱積していました。C.P.I.は、子どもたちへの教育支援を通じて、彼らを励ます必要があると提言してきました。いよいよ事態は、切迫しています。2019年には、活動の実現に、本腰をいれたいと考えます。



2007年の奨学修了者代表者会議の記念写真



② インドネシアの教育支援活動では、奨学生ひとり当たりの教育支援金は、昨年から増額しています。

教育支援金の 2018 年度対象学生数

学年	中学3年生	高校1年生	高校2年生	高校3年生	大学生1～2年生	合計
人数	0	25名	40名	40名	35名	140名

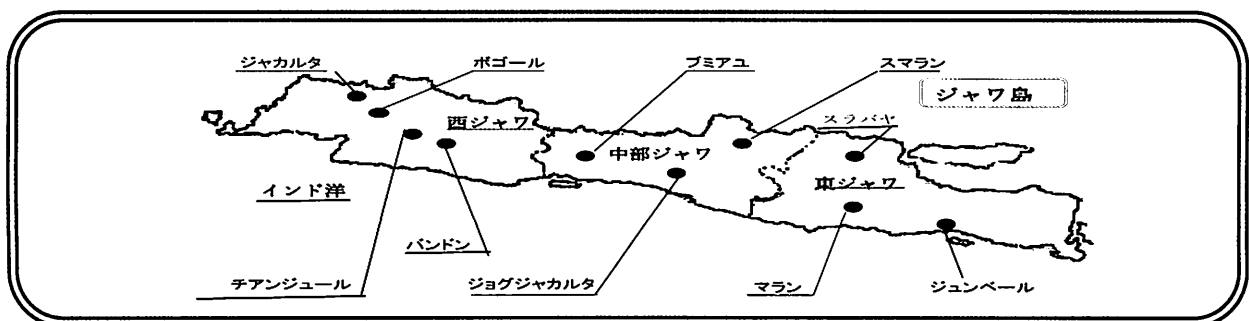
インドネシア教育支援の当期計画と当期実績 (金額単位:千円)

	2018年度 計画	2018年度 実績	備 考
里親数/里子数(人)	122/137	124/140	計画は、2018年度開始時期の教育里親数による。
中学生学費	0	0	中学生支援は、政府が「完全義務教育制」に踏み切ったことを機会に、奨学制度から一度外すことにした。
高校生学費	1574	1557	
中高生試験費	上記に含む	上記に含む	
大学生学費	501	587	大学2年生まで学費支援を行っている。
教育里子会の活動	534	536	教育里子の集会・彼らの社会活動などを支援。
調査・日常把握等	801	804	地域リーダー・アシスタントの交通費・電話・郵送・その他の経費。
電話・郵便・交通費等			
(小計)	(3,410)	(3,484)	
合計	3,410	3,484	ひとり当たり教育支援金は、昨年の水準を維持した。

(インドネシアに関わる特筆)

インドネシアでは、30年間にわたり念願してきた政府による中学生義務教育化が、実現しました！  
従って、2017年度から、C.P.I.は、インドネシアの中学生への支援を終了しました。  
現在の、各地の支援状況は、次のとおり。金額は、現地通貨(Rupiah)です。

地域\学年	高校1年	高校2年	高校3年	大学1-2年	巡回費	調査費	奨学生会
年間支援	1,440,000	1,440,000	1,840,000	1,800,000	7,200,000	3,600,000	7,200,000
BOGOR	3名	0名	8名	6名	一式	一式	一式
JEMBER	3名	5名	3名	4名	一式	一式	一式
CIANJUR	7名	10名	11名	薬剤師就職	一式	一式	一式
JAKARTA	3名	6名	3名	5名	一式	一式	一式
BUMIAYU	3名	6名	3名	4名	一式	一式	一式
SEMARANG	0名	3名	6名	6名	一式	一式	一式
YOG-YAK	3名	5名	3名	4名	一式	一式	一式
MALANG	3名	5名	3名	6名	一式	一式	一式
奨学生合計	25名	40名	40名	35名	奨学生の数に拘わらず		
支援合計	36,000,000 Rupiah	57,600,000 Rupiah	73,600,000 Rupiah	63,000,000 Rupiah	57,600,000 Rupiah	28,800,000 Rupiah	57,600,000 Rupiah



## 自分が助けられた分、人を助けたい」奨学修了者の声です！

現地会報で、インドネシアの奨学修了者から「C.P.I.の里親さんのご支援による今の自分」を、題材に、手紙を書いて戴き、掲載しています。ひとりでも多くの方の目に触れて戴きたい内容です。

大学を優秀な成績で出て、現在高い地位にいる奨学修了者でも、卒業後の紆余曲折を経て、今があることを知ることができます。学校で勉強をしている現在の奨学生に聞かせたい話ばかりです。

C.P.I.本部に手紙を送って下さった奨学修了者に聞いてみたところ、

「C.P.I.の教育里親さんに自分は助けられた。だから、その分、人を助けて生きていきたい。」

と、話してくれました。今後は、彼らとの連帯を以て教育支援を続けていきたいと、考えます。

### 奨学対象者は、変化していく。喜び合えるかぎり、続けたい。

2017年度から中学生支援を終了することにしました。3年前、インドネシア政府が、公立中学生の経済的負担を無くすため、義務教育化を完遂する方針を発表し、各地で続々と実現されてきた故です。

C.P.I.は、1989年に奨学プログラムを発足以来、次の家庭に、中学3年生からの奨学を行ってきました。

① 中学校3年生以降になると増大する教育費を、継続的に負担することが、難しい家庭。

② 中学3年生・高校3年生の修了資格に必要な、卒業試験の費用が高額で、負担に耐えられない家庭。

そういう家庭で、優秀な成績をあげてきた学生が、勉強を諦める現実があることは、非常に残念と考えました。

そのような人材こそ救うべきだと、インドネシア政府に訴え続けて30年の歴史があります。

ようやく、中学生に関しては、支援活動に『出口』が見えたと思います。実に長い年月でした。

教育里親による支援の成果は、目に見えて顕れています。それは、現地会報でお知らせしています。

何よりも、嬉しいことは、遠く日本にいる私たちを、強く慕ってくれていることです。

今後、我々は、地方経済を活性化させることを目標に、教育支援を続けていきたいと考えます。

奨学修了者たちとの連携で、新機軸での教育支援による成果を求め、喜び合おうではありませんか。

(2) 教育里親に、受持ち里子の状況報告と、活動の成果を掲載した現地会報を発行しました。

① スリランカの現地報告ステューティ誌を12月に発行。

② インドネシアの現地報告クルアルガ誌を12月に発行。

③ スリランカ教育里子への支援を行う正会員に、年末の時点での試験結果等状況報告。

④ インドネシア教育里子への支援を行う正会員に、年末の状況報告。

## 2. C.P.I.の活動へ、多くの市民の参画を広げる活動に係る報告（定款第七条1項3号）

(1) 第9回「日本インドネシア市民友好フェスティバル」を、チャリティ活動と連携させました。

東京・代々木公園で毎年主催している「日本インドネシア市民友好フェスティバル」は、平成30年に9周年を迎えました。主催団体としての認知も広まった時期と考え、「チャリティ活動に係わる市民連帯の催し」との位置づけを明確にして開催しました。

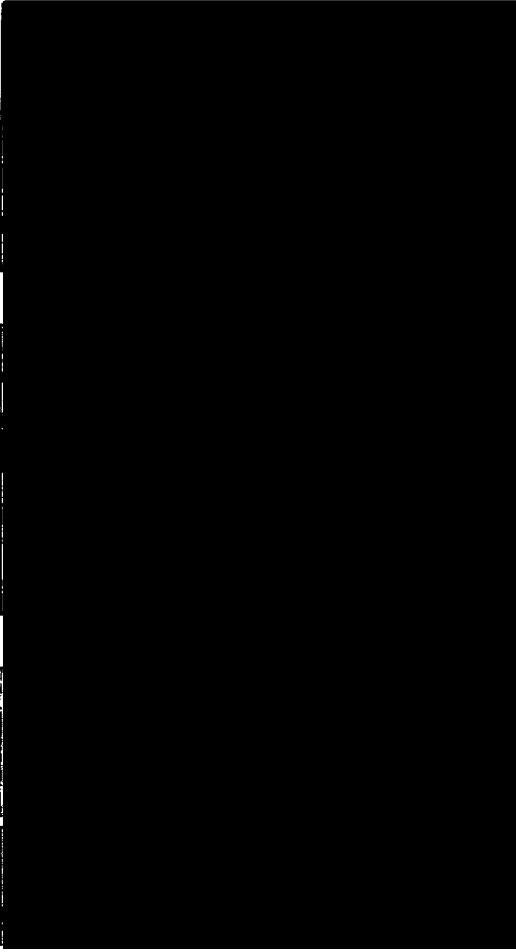
フェスティバルホームページ  WEB広報、メディアへの記事掲載、ラジオ(FM東京)に於いて、「インドネシア小学校飲料水の浄化施設プロジェクト」へ賛同を募りました。

催事期日 10月20日(土)～21日(日)インドネシア中央政府(社会活動省)の共催でした(書類あり)。

協賛 クリタヌサンタラ基金会(在インドネシア)、Ms.Andien(インドネシアの有名な女性歌手)、日本のプロ女性歌手(Maria Teresa Gaw 他)、在日インドネシア舞踊グループ、料理レストラン出店会社、インドネシア物販の出店会社。

インドネシアからの協賛の皆様は、旅費・日本滞在費のすべてを現地で調達して下さいました。

## (2) 東京テレビ放送で、C.P.I.の教育里親制度がクローズアップ！



2月4日（月）、テレビ東京の「ワタシが日本に住む理由」という番組で、C.P.I.の元・教育里子の Dinusha さんが出演しました。

Dinusha さんは、14歳の時 C.P.I.の教育里子になり、高校に進学。3年の時日本語弁論大会で優勝。そのご褒美として、1995年、日本への研修旅行へ招待され2週間滞在し、教育里親の佐藤さんにも面会しています。


大学へ進学し、卒業後の2002年に結婚。2006年に長女を出産。翌年に、日本の国費留学生に合格し、家族と共に信州大学大学院へ進学。九州大学研究生などを経て、現在、久留米大学で留学生に日本語を教える講師を務めています。

ご主人は、仕事の間 C.P.I.の牟田理事の菜園で野菜作りをするなど、九州の里親みtainなお付き合いをしています。そうした日常的な関係があるので、この放送には、牟田さんも出演され、C.P.I.の教育里親制度の話がされました。おかげで、二人の方が、C.P.I.の里親になって下さいました。

## (3) 「スリランカへの教育里親—里子交流ツアー」は、30年目を迎えました。

牟田理事を団長として実施。会員以外の方の参加もあり、帰国されてから入会される方が多いです。8月23日～8月31日。観光、日本祭り参加、里子との交流など。

## (4) C.P.I.理事会の功労者の皆様のご遺影を、スリランカ施設のパゴダの地下に安置しました。



C.P.I.の長い歴史の中には、喜べる成果もありますが、多くの苦難や難しさ、理不尽さを乗り越えた出来事があります。

それらを共に体験してきた執行部・理事会のメンバーは、専務する会長を除いては無償ボランティアで支えて下さっています。その皆様が故人となられたとき、スリランカの拠点にあるパゴダに安置することになり、今回は、大山利雄・山形博一・三谷誠一の各氏を、ご遺族のご了解を得て、安置させて戴きました。

3. 教育開発により、貧困な人々の自立を助ける活動に係る報告（定款第七条1項2号）

(1) インドネシアで、2000年に内務省との共催で行った「一村一品運動」セミナーを契機に、以来、各地の振興に役立つ教育を進める人々と、足並みを揃えています。

これまで ① 2003年に正規資格を得た西ジャワ州・チアンジュールの薬剤師養成高校

① 2005～2008年に世界銀行と組み、中部ジャワ州・スマランの高地農業改革組合

② 2013年に南スラウェシ州パンカップの資源管理漁業の大切さを教える中学校

形態は様々ですが、C.P.I.は、コミュニティカレッジの設立に努力する人々を支援してきました。地方向上の切り札は、地域産業振興に係る教育にあります。C.P.I.は、その考えに協働しています。



西ジャワ州の薬剤師養成高校

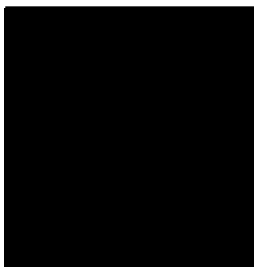


南スラウェシ州に設立した、持続的漁業の良さを教える中学校

NOTE:

なお、定款第七条2号の「収益事業」については当期に於て行われなかった。  
(理事小・西岡文記)

被災地の命を守る。『コラボ・奇跡の水』を子どもたちに！



スマホでQRコードを読み取って下さい。



インドネシア向けの、「子どもに毒水を飲ませるな！」このキャンペーンを始めて、今年で6年目。

バンドン工科大学の協力を得て、東ジャワ州の小学校に第一号の固定浄水機を設置してから、早くも3年目。

昨年からはインドネシアで続々と起きる天災の被災者の飲料水を配給するために、車載浄水機を開発しました。本体に企業ロゴを印刷する『コラボ・奇跡の水』への企業CSRを募集中です。一刻も早い救援参加を！



平成 30 年度（2018 年度）決算報告書

（非営利活動に係る事業 総括表）

自 平成 30 年（2018 年）4 月 1 日  
至 平成 31 年（2019 年）3 月 31 日

寄付控除認定 特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会

## 2018年度特定非営利活動に係る事業 総括会計収支計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
会費収入		
正会員入会金収入	9,000	
正会員会費収入	7,113,000	7,122,000
寄付金収入		
スリ Lanka教育支援金収入	10,754,500	
インドネシア教育支援金収入	3,472,000	
賛助支援金収入	410,000	
一般寄付金	238,000	
国際協力応援団寄付	7,112,567	21,987,067
運用財産利息収入(国内)	22	
運用財産利息収入(インドネシア)	456,227	456,249
経常収入合計		29,565,316
II 経常支出の部		
事業管理費(別紙)	8,967,700	8,967,700
教育支援事業費		
スリ Lanka教育里親制度プログラム	10,000,000	
インドネシア教育里親制度プログラム	3,483,918	13,483,918
特別会計支出		
インドネシア特別会計(別紙明細)	12,100,735	12,100,735
海外派遣費	1,989,919	1,989,919
国内派遣費	75,270	75,270
地域会活動費	3,034	3,034
総会関連費	326,279	326,279
報告広報費	330,553	330,553
IT広報費	402,858	402,858
経常支出合計		37,680,266
経常収支差額		-8,114,950
III その他資金収入の部		
インドネシア特別会計から繰入	3,600,000	3,600,000
IV その他資金支出の部		
一般会計への繰入れ	3,600,000	3,600,000
当期収支差額		-8,114,950
前期繰越収支差額		577,250,38
次期繰越収支差額		49,610,088

(別紙:事務管理費)	(単位:円)
専務者給与	4,200,000
職員給与	1,776,000
雑給	218,730
法定福利費	519,282
福利厚生費	19,574
旅費交通費	79,060
交際費	111,153
郵便料	100,437
国内電話料	281,001
海外電話料	22,090
会議費	124,408
消耗品費	122,191
事務用品費	207,652
運搬費	8,530
水道光熱費	41,122
賃借料	622,800
図書研究費	18,144
支払手数料	56,796
諸会費	86,520
リース料	69,630
雑費	43,418
保険料	110,818
修繕費	56,394
租税公課	71,950
<b>事業管理費 合計</b>	<b>8,967,700</b>

※ 当期は、多くの活動がインドネシア関係に費やされていたことに鑑み、専務者給与の内200万円および海外派遣費の内160万円を、インドネシア特別会計から一般会計に繰り入れる。  
この措置により、会計全体の今後のバランスを考慮することとする。

※国際協力応援団寄付およびインドネシア特別会計の内訳は、インドネシア特別会計収支報告で記す。

(次期繰越収支差額の内訳に係わる特記)

	(総 括)	(一般会計)	(インドネシア特別会計)
流動資産	64,476,088	12,261,168	52,214,920
流動負債	14,866,000	14,866,000	
差引繰越収支差額	49,610,088	-2,604,832	52,214,920

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 会計総括 正味財産増減計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額	
正味財産増加の部		
資産増加額		
当期収支差額(プラス)	0	0
固定負債減少額		
	0	0
増加額合計		0
II 正味財産減少額		
資産減少額		
当期収支差額(マイナス)	8,114,950	8,114,950
固定負債増加額		
		0
減少額合計		8,114,950
当期正味財産増減		-8,114,950
前期繰越正味財産額		57,850,022
当期正味財産合計額		49,735,072

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 会計総括貸借対照表

2019年3月31日現在

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位：円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
(流動資産)		(流動負債)	
現金預金	59,408,588	前受金	14,866,000
前渡金	5,000,000		
預け金	67,500	流動負債合計	14,866,000
流動資産合計	64,476,088	(固定負債)	
		固定負債合計	0
(固定資産)			
その他固定資産	124,984	負債合計	0
固定資産合計	124,984	III 正味財産の部	
		正味財産	49,735,072
資産合計	64,601,072	負債及び正味財産合計	64,601,072

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 会計総括 財産目録

2019年3月31日現在

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額	
<b>I 資産の部</b>		
(流動資産)		
現金預金		
現金	73,626	
郵便振替センター	4,395,013	
みずほ銀行調布仙川店(普)	666,519	
みずほ銀行調布仙川店(寄付窓口)	33,101	
みずほ銀行調布仙川店( )	92,194	
三菱東京UFJ銀行本店(普)	1,925,937	
三菱東京UFJ銀行本店(US\$)	5,466	
HNB Colombo(スリランカ 円口座)	22,524	
BOTM Jakarta(インドネシア 円口座)	25,569	
CIMB NIAGA(インドネシア Rp.口座)	20,610	
BRI Jakarta(インドネシア RP.当座)	223,446	
BRI Jakarta(インドネシア Rp.普通)	11,926,873	
インドネシア Rp 現金	4,862	
インドネシア 女性組合定期預金	39,992,848	59,408,588
前渡金(註1)	5,000,000	5,000,000
預け金(註2)	67,500	67,500
流動資産合計		64,476,088
(固定資産)		
その他固定資産(註3)	124,984	124,984
固定資産合計		124,984
資産合計	0	64,601,072
<b>II 負債の部</b>		
(流動負債)		
前受金(註4)	14,866,000	14,866,000
流動負債合計		14,866,000
(固定負債)		
固定負債合計	0	0
負債合計	0	14,866,000
<b>III 正味財産の部</b>		
正味財産		49,735,072

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 会計総括財産目録の注釈

インドネシア内現地通貨預金につき、現地通貨勘定と円勘定を対比して記する。

	(現地ルピア価額)	(円価額)
インドネシアRp.普通口座(CIMB NIAGA))	Rp2,479,447	¥20,610
インドネシアRp.当座口座(BRI Jakarta)	Rp27,004,022	¥223,446
インドネシアRp.普通預金(BRI Ambasadador Mal)	Rp1,281,928,709	¥11,926,873
インドネシア Rp 現金	Rp521,135	¥4,862
インドネシア Rp.定期預金(組合定期)	Rp3,355,000,000	¥39,992,848

## (特記 1)

円の帳簿価額は、インドネシアRp.による現預金勘定の2019年3月31日時点の移動平均法により為替レートを算出している。組合定期を除く期末の残高合計Rp.1,311,933,313を、円の総額 12,175,791で割ると、時価(1円=108ルピア)である。

組合定期は、現在の時価額では31,064,815円となり、設定時の為替レート(1円=83.89ルピア)の時の簿価額 39,992,848円と比較すると、8,928,033円と大幅な評価損にある。但し、当会は円への戻入れを行わない前提で活動を進めているため、為替の評価損益は計上しないことにしている。

## (特記 2)

昨年も特記した、組合定期に係わる処理につき、進展があるので以下に述べる。

本件は、インドネシアに於いて貧困女性の救済に当たっている、KOPRSI WANITA INDONESIA (KOPWANI)との協働活動の一環として、C.P.I.からKOPWANIに対する資金支援から発生した。2009年3月から2019年3月と期限を設定して、2019年3月の期限到来により戻し入れを約定したものである。

設定当時、KOPWANIは、MINISTRY OF HOUSINGとの二人三脚で、女性向けの家屋を提供する業務を行い、同MINISTRYが、建設費の半額負担をし、さらに購入者の銀行ローンの保証を行う形で進んでいた。

さらに、KOPWANIは、広大な土地を所有しており、同MINISTRY大臣からの依頼もあり、応じたものであった。しかし、2011年秋に、同MINISTRYが、その業務に対する支援方針を変えたため、KOPWANIが苦境に立った。

C.P.I.執行部は、2012年に、KOPWANIに対して、MINISTRY方針の変化を理由に全額戻入を申し入れたが、当時、KOPWANIにとって、それは非常に難しい状況にあった。そこで、KOPWANIからの申し入れにより、当時KOPWANIの家屋建設プロジェクトの責任者であったMrs.Nursi から、家屋プロジェクト収入を以て返済させる、とのことであった。そこでC.P.I.執行部は、その作業を開始し、2014年3月までその作業を行っていたが、Mrs.Nursiの変節により、それが叶わず、以降、2016年に本件代理人を指定しての回収努力を続けてきた。

今期、2019年3月の戻し入れ期日を迎えるに当たり、当法人執行部は、2018年11月に、KOPWANI 現会長宛に正式文書で、期限到来戻入を請求した。その結果、KOPWANIは、相当の努力をしたとのことで、2019年4月29日に、こちらの請求金額を全額戻入できる目処がついたと言質を得た。目下、KOPWANIからの支払期日等を具体的にした書類を、インドネシアの法律事務所において揃えて、返済を法的に確保することにした。

## (資産の部の註記事項)

註 1: 2019年度のスリランカ教育里親制度プログラムに係わる、2018年内のSNECCへの前渡分

註 2: 三鷹市北野の本部作業所の敷金等

註 3: 電話権利代残高(長期に継続残)

## (負債の部の註記事項)

註 4: 2018年度内の会費・教育支援金収入のうち、2019年度分の入金額

平成 30 年度（2018 年度）決算報告書

非営利活動に係る事業（一般会計）

自 平成 30 年（2018 年）4 月 1 日  
至 平成 31 年（2019 年）3 月 31 日

寄付控除認定 特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会



## 2018年度特定非営利活動に係る事業 一般会計収支計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
会費収入		
正会員入会金収入	9,000	
正会員会費収入	7,113,000	7,122,000
寄付金収入		
スリランカ教育支援金収入	10,754,500	
インドネシア教育支援金収入	3,472,000	
賛助支援金収入	410,000	
一般寄付金	238,000	14,874,500
運用財産利息収入(国内)	22	22
経常収入合計	21,996,522	21,996,522
II 経常支出の部		
事業管理費(別紙)	8,967,700	8,967,700
教育支援事業費		
スリランカ教育里親制度プログラム	10,000,000	
インドネシア教育里親制度プログラム	3,483,918	13,483,918
海外派遣費	1,989,919	1,989,919
国内派遣費	75,270	75,270
地域会活動費	3,034	3,034
総会関連費	326,279	326,279
報告広報費	330,553	330,553
IT広報費	402,858	402,858
経常支出合計		25,579,531
経常収支差額		-3,583,009
III その他資金収入の部		
インドネシア特別会計から繰入	3,600,000	3,600,000
IV その他資金支出の部		
	0	0
当期収支差額		16,991
前期繰越収支差額		-2,621,823
次期繰越収支差額		-2,604,832

別紙:事務管理費	(単位:円)
専務者給与	4,200,000
職員給与	1,776,000
雑給	218,730
法定福利費	519,282
福利厚生費	19,574
旅費交通費	79,060
交際費	111,153
郵便料	100,437
国内電話料	281,001
海外電話料	22,090
会議費	124,408
消耗品費	122,191
事務用品費	207,652
運搬費	8,530
水道光熱費	41,122
賃借料	622,800
図書研究費	18,144
支払手数料	56,796
諸会費	86,520
リース料	69,630
雑費	43,418
保険料	110,818
修繕費	56,394
租税公課	71,950
事業管理費 合計	8,967,700

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 一般会計正味財産増減計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額	
正味財産増加の部		
資産増加額		
当期収支差額(プラス)	16,991	16,991
固定負債減少額		
	0	0
増加額合計		16,991
II 正味財産減少額		
資産減少額		
当期収支差額(マイナス)	0	0
固定負債増加額		
		0
減少額合計		0
当期正味財産増減		16,991
前期繰越正味財産額		-2,496,839
当期正味財産合計額		-2,479,848

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 一般会計貸借対照表

2019年3月31日現在

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位：円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
(流動資産)		(流動負債)	
現金預金	7,193,668	前受金	14,866,000
前渡金	5,000,000		
預け金	67,500	流動負債合計	14,866,000
流動資産合計	12,261,168	(固定負債)	
		固定負債合計	0
(固定資産)			
その他固定資産	124,984	負債合計	14,866,000
固定資産合計	124,984		
		III 正味財産の部	
資産合計	12,386,152	正味財産	-2,479,848
		負債及び正味財産合計	12,386,152

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 一般会計財産目録

2019年3月31日現在

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額	
<b>I 資産の部</b>		
(流動資産)		
現金預金		
現金	73,626	
郵便振替センター	4,395,013	
みずほ銀行調布仙川店(普)	666,519	
みずほ銀行調布仙川店(寄付窓口)	12,389	
みずほ銀行調布仙川店( )	92,194	
三菱東京UFJ銀行本店(普)	1,925,937	
三菱東京UFJ銀行本店(US\$)	5,466	
HNB Colombo(スリランカ 円口座)	22,524	7,193,668
前渡金	5,000,000	5,000,000
預け金	67,500	67,500
流動資産合計		12,261,168
(固定資産)		
その他固定資産	124,984	124,984
固定資産合計		124,984
資産合計		12,386,152
<b>II 負債の部</b>		
(流動負債)		
前受金	14,866,000	14,866,000
流動負債合計		14,866,000
(固定負債)	0	0
固定負債合計	0	0
負債合計		14,866,000
<b>III 正味財産の部</b>		
正味財産		-2,479,848

平成 30 年度（2018 年度）決算報告書

非営利活動に係る事業（インドネシア特別会計）

自 平成 30 年（2018 年）4 月 1 日  
至 平成 31 年（2019 年）3 月 31 日

寄付控除 NPO 認定 特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会

## 2018年度特定非営利活動に係る事業 インドネシア特別会計収支計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額		
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
国際協力応援団寄付金収入			
飲料水浄化プロジェクト準備ファンド(註1)	1,081,060		
国際協力応援団寄付(上記以外)	6,031,507	6,031,507	
運用財産利息収入(インドネシア)	456,227	456,227	
経常収入合計		6,487,734	
II 経常支出の部			
①飲料水浄化プロジェクト	2,833,652	2,833,652	
②ジャカルタ事務所賃貸料	158,487	158,487	
③教育支援(奨学生)協議・8地域巡回	38,945	38,945	
④滞在宿舍費・通信料・銀行維持費	367,391	367,391	
⑤インドネシア政府登録等交渉活動費	825,997	825,997	
⑥対インドネシア女性組合交渉活動費	141,286	141,286	
⑦インドネシアフェス:広報物、雑物	100,457		
⑧インドネシアフェス:バス・タクシー	3,390		
⑨インドネシアフェス:出演者・スタッフの食事・謝礼	618,384		
⑩インドネシアフェス:会場設営、音響機材レンタル等	5,548,000		
⑪インドネシアフェス:オリンピックセンター 施設使用(宿泊・食事・練習)	416,500		
⑫インドネシアフェス:東京都東部公園緑地事務所	1,015,200	7,701,931	
⑬テレコムクレジット:飲料水浄化ファンド窓口	33046	33,046	
経常支出合計		12,100,735	
経常収支差額		-5,613,001	
III その他資金収入の部			
IV その他資金支出の部			
一般会計への繰入れ	3,600,000	3,600,000	3,600,000
当期収支差額			-9,213,001
前期繰越収支差額			60,346,861
次期繰越収支差額			51,133,860

(註1) 飲料水浄化プロジェクトの実質的な収支状況は、前期からの流れがあるため、次ページに詳細を記す。

## 飲料水浄化プロジェクトに係わるファンドの収支状況

2018年度の期首残高	3,145,574円	
2018年度期中増加高		
国際協力応援団寄付のうち (なお、この寄付は、日本国内で当法人が寄付控除証明が発行したものである。)	1,081,060円	
		4,226,634円

2018年度期中の減少高		
車載浄水装置の製作費	2,149,794円	
現地補佐員報酬:Daryono 月 Rp.10,000,000 9月~11月	223,090円	
現地補佐員経費:Daryono 本プロジェクト関係 9月~11月	339,500円	
本プロジェクト関係補佐報酬:通訳・被災地交渉等	121,268円	
		2,833,652円

(C.P.I.本部の費用は、数的効果が出ないと賄えない。2018年度は、本部経費として賄った。)

2018年度期末残高	1,392,982円
------------	------------

(なお、この金額は、C.P.I.の独自資金としてのインドネシア内BRI普通預金口座に置く。)



## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 インドネシア特別会計正味財産増減計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額	
正味財産増加の部		
資産増加額		
当期収支差額(プラス)	0	0
固定負債減少額		
	0	0
増加額合計		0
II 正味財産減少額		
資産減少額		
当期収支差額(マイナス)	8,131,941	8,131,941
固定負債増加額		
		0
減少額合計		8,131,941
当期正味財産増減		-8,131,941
前期繰越正味財産額		60,346,861
当期正味財産合計額		52,214,920

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 インドネシア特別会計貸借対照表

2019年3月31日現在

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位：円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
(流動資産)		(流動負債)	
現金預金	52,214,920		
流動資産合計	52,214,920	流動負債合計	0
(固定資産)	0	(固定負債)	
固定資産合計	0	固定負債合計	0
資産合計	52,214,920	負債合計	0
		III 正味財産の部	
		正味財産	52,214,920
		負債及び正味財産合計	52,214,920

## 2018年度 特定非営利活動に係る事業 インドネシア特別会計財産目録

2019年3月31日現在

認定特定非営利活動法人  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
(単位:円)

勘定科目	金額	
<b>I 資産の部</b>		
(流動資産)		
現金預金		
みずほ銀行調布仙川店(寄付窓口)	20,712	
BOTM Jakarta(インドネシア 円口座)	25,569	
CIMB NIAGA(インドネシア Rp.口座)	20,610	
BRI Jakarta(インドネシア RP.当座)	223,446	
BRI Jakarta(インドネシア Rp.普通)	11,926,873	
インドネシア Rp 現金	4,862	
インドネシア 女性組合定期預金	39,992,848	52,214,920
流動資産合計		52,214,920
(固定資産)	0	0
固定資産合計		0
<b>資産合計</b>		<b>52,214,920</b>
<b>II 負債の部</b>		
(流動負債)		0
流動負債合計		0
(固定負債)		0
固定負債合計		0
<b>負債合計</b>		<b>0</b>
<b>III 正味財産の部</b>		
正味財産		52,214,920

## 平成30年度 年間役員および役員報酬を受けた者の名簿

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

認定特定非営利活動法人シーピーアイ教育文化交流推進委員会

役職名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事	コニシ キクミ 小西 菊文		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
理事	ヨコハマ ヒデノリ 横濱 英紀		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
理事	ヤマカワ ヨウイチ 山川 洋一		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
理事	ムタ シンイチロウ 牟田 慎一郎		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
理事	ミヤハラ カツヘイ 宮原 克平		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
理事	サノ ユウ 佐野 友		30年7月1日～ 31年3月31日	なし
理事	ウエダ キョウイチ 植田 恭一		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
理事	カウ ヨシノブ 加藤 凱信		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
理事	タカシマ ケイコ 高嶋 恵子		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
監事	ハナワ ヨシミツ 塙 善光		30年4月1日～ 31年3月31日	なし
監事	クボタ ヒデオ 久保田秀雄		30年4月1日～ 31年3月31日	なし

## 社員のうち10人以上の者の名簿

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人シーピーアイ教育文化交流推進委員会

氏名	住所又は居所
コニシ キクミ 小西 菊文	
ヨコハマ ヒデノリ 横濱 英紀	
ヤマカワ ヨウイチ 山川 洋一	
ムタ シンイチロウ 牟田 慎一郎	
ミヤハラ カツヘイ 宮原 克平	
サノ ユウ 佐野 友	
ウエダ キョウイチ 植田 恭一	
カノウ ヨシノブ 加藤 凱信	
タカシマ ケイコ 高嶋 恵子	
ハナワ ヨシミツ 塙 善光	
クボタ ヒデオ 久保田 秀雄	